# 送る言葉

暖かな日差しを感じる季節となりました。桜の木にはつぼみがつき始め、間もなく訪れる春を告げています。

卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

明日からこの学校に先輩方がいないと思うと、感謝の気持ちが一層込み上げると同時に、とめどなく悲しみがあふれてきます。

誰もが新しい生活へ一歩踏み出す春。初めて出合う世界に期待と不安で胸を膨らませ、この東中学校に入学してきた私達に、先輩方は東中生としての手本を示してくださいました。あの日から、先輩方はずっと私達の憧れであり、今日まで私達を導いてくださいました。

初夏というにはあまりにも熱い日々。８００人の思いがぶつかり合った白熱の運動会では、優勝という一つの目標に向かって学年を越えて力を合わせて戦いました。全力を出し切れば、どんな結果であっても悔いなく終わることができると、学ばせて頂きました。

クラスの絆が深まった秋。合唱コンクールでは、先輩方の積み上げてきた努力が、美しいハーモニーとなって大きなホールに響き渡り、私達の心を揺さぶりました。思いを込めることで、相手の心をも動かすことができるのだと感じた瞬間でした。

自分を成長させる冬。友と励まし合い、自分自身と戦った強歩大会。生まれて初めて歩き通した３０キロ。完歩したときの清々しさは忘れられません。先輩方の力強い歩みを見て、諦めずに最後までやり通して、見ることができる景色というものがあることを知りました。

コロナ禍で自分達にできることは何か。可能性を探り、「全校企画２０２０」として、折り鶴アートで感謝の気持ちや祈りを表しました。先輩方は完成というゴールに向かって力強く私達をリードしてくださいました。

思えば、昨年の３月２日。この日から学校の臨時休業が始まりました。新型コロナウイルスという未知のウイルスは、私達の日常を唐突に奪っていきました。新学期が始まっても、先の見えない不安な思いを抱えながら過ごす日々が続いていきました。悔しさや悲しさが入り交じり、どうすればいいのかもわかりませんでした。

そんな時でも、常に進むべき道を示してくれたのは３年生の皆さんでした。新しい生活様式が求められ、何が正しいのか混沌とする中でも、当たり前を当たり前にこなすみなさんから、東中生としての在り方を教えて頂きました。何事にも真摯に向き合う皆さんの姿勢を見て、私達は明るい未来へ一歩踏み出す勇気を得ることができました。

全校企画２０２０で完成した言葉は、「全てが私達の青春　今こそ心を１つに　つかめ明るい未来」でした。三年生の思いが強く込められたこの言葉は、たくさんの人の心を動かしました。失われたことをコロナ禍のせいにしても、何も戻ってくることはありません。けれども私達自身は、今あるこの青春を楽しみ、日常の中に思い出を作ることができるのです。一生に一度きりの学校生活を、今しかない私達の青春を、どう受け止めるかは自分達次第なのだと、この言葉に気づかされました。

「ありがとう」という言葉を漢字で表すと、「有る事が難しい」と書きます。当たり前の生活は、失って初めて当たり前ではないと気づきます。「本当の感謝」はそんな「当たり前への感謝」ではないでしょうか。当たり前を失った生活の中でも、皆さんは自分に出来ることに挑戦し続けてきました。どんな時にもそのことを思い出し、自分の、自分達の力を信じ抜いてください。

私達は新しい状況に対応しながら、受け継がれてきた東中学校の伝統を、地域に応援される東中学校を、先輩方の作り上げてきた東中学校のプライドを、守り育てていきます。そして、先輩方が誇ることの出来る、素晴らしい東中学校となるよう、精一杯努めていきます。

「全てが私達の青春」。この言葉を胸に、ご自身の信じる道を進んでいってください。いつまでも先輩方を応援しています。本当に有難うございました。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を心からお祈り申し上げ、卒業生を送る言葉といたします。

令和３年３月１１日
令和２年度在校生代表
長谷川菜々美